

佐鳴台地区社会福祉協議会ニュース NO82

2013. 6. 30

老人クラブの皆様へ

梅雨に入りうっとうしい日が続いていますが、皆様お健やかに過ごしのことと存じます。

日頃より当社協の活動にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

68年前になるでしょうか、昭和20年6月18日の未明に連合軍による浜松大空襲がありました。浜松は一夜にして16,000余の住宅が火の海になり、約1,200人の市民がなくなりました。皆様の多くの方が、いろいろなところでひどい目に合われたことと思います。

東日本の津波の悲惨な状況を見て、多くの方は、あの焦土と化した浜松、静岡、名古屋、東京、広島、長崎、等々が鮮明に蘇ってきたと思います。

さて、今回、小学生の高学年の児童のために「戦中・戦後のあの苦しかった時代をどうやって暮らしてきたかについて」社協の活動のひとつとしてお話していただく機会を設けました。

皆様のあの当時苦しかったけれども、生きるために頑張ったどんな些細なお話でも聞けば、子どもさんたちはそれなりの価値を見つけてくれると確信しています。

当社協が10年前に皆様のご協力により「戦争の悲惨さについての体験談」をお話していただいたときも大変好評でした。

つきましては、下記の要領で行いますので、ぜひ子どもさんたちにとって貴重なお話をしてくださるようお願いいたします。

記

- 1、目的：皆様の様々なお話をとおして「生きるために、ともに支え合い、ともに助け合い、ともに分かち合い、ともに励まし合い、ともに喜び合い、ともに慰め合い、ともに笑い、ともに泣く・・・このような他者への思いやりや人の絆の大切さ」を子どもたちに感じてもらう。
- 2、日時：8月11日（日）14:00～16:00
- 3、場所：佐鳴台協働センターホール
- 4、対象：小学校高学年
- 5、お話ししていただく内容
特に指定はしませんが、戦火の中での暮らし、戦地での暮らし、外地での暮らし、疎開地での暮らし、学徒動員での暮らし、挺身隊での暮らし、焦土化した中での暮らし、掘立小屋での暮らし、バラックでの暮らし、統制下（配給も含む）の暮らし、そのほか、仕事探し、闇市、買い出し、タケノコ生活などなど
- 6、7月下旬にお話ししてくださる方の事前の打ち合わせをします。
(後日、はがきで連絡します)

問い合わせ・申し込み

佐鳴台社会福祉協議会事務局

織田 TEL/FAX 449-0302